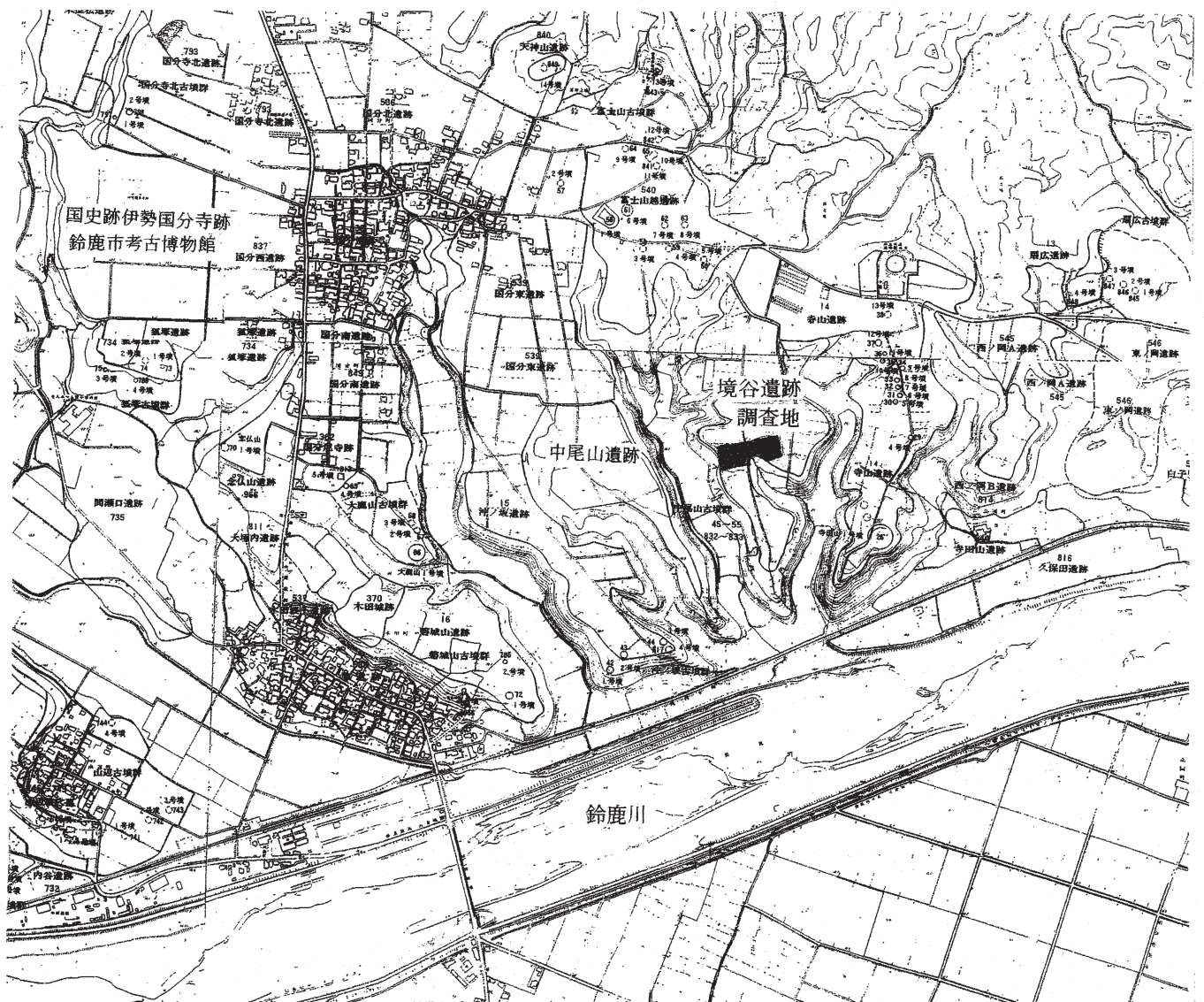


平成 19 年 1 月 27 日 (土)

# 境谷遺跡 1 次調査

## 現地説明会資料



鈴鹿市考古博物館

## 1. 調査概要

- ・ 所在地 鈴鹿市国分町字境谷
- ・ 調査期間 平成 18 年 8 月 7 日～12 月 22 日
- ・ 調査面積 約 8,000 m<sup>2</sup>
- ・ 調査目的 不燃物リサイクルセンター 2 期事業建設に係る発掘調査
- ・ 調査主体 鈴鹿市
- ・ 調査機関 鈴鹿市考古博物館
- ・ 調査協力 株式会社 イビソク

## 2. はじめに

境谷遺跡は、鈴鹿市国分町字境谷に所在し、弥生時代中期と古墳時代後期から奈良時代にかけての複合遺跡です。当遺跡の所在する台地上は遺跡の密度が高い地域であり、周辺の遺跡には、弥生時代のものとして中尾山遺跡・沖ノ坂遺跡などがあり、古墳時代では、富士山 1 号墳・寺田山 1 号墳などの前方後円墳や、飛鳥・奈良時代のものとして狐塚遺跡(河曲郡衙)・大鹿廃寺・伊勢国分寺跡があります。境谷遺跡は、弥生時代・古墳時代の遺跡として知られていましたが、現況は山林となっており、長い間調査されることなく、詳しいことはわかっていませんでした。

今回の調査は、不燃物リサイクルセンター 2 期事業に伴う第 1 次発掘調査で、約 8,000 m<sup>2</sup>の面積を発掘調査しました。次年度も同面積の発掘調査(2 次調査)を予定しております。

## 3. 調査成果

今回の調査では、主に弥生時代中期(紀元前 1 世紀～紀元後 1 世紀)の竪穴住居や土坑、古墳時代後期(6 世紀後半)から飛鳥・奈良時代(7～8 世紀)にかけての竪穴住居・土坑・掘立柱建物などが見つかりました。

### 弥生時代中期の遺構・遺物

竪穴住居……弥生時代のものは 34 棟見つかりました。その形として、円形住居(5 棟)と方形住居(29 棟)あり、規模は、円形住居で最大のもので直径約 8.7m・検出面からの深さ約 0.15m、長方形住居では最大のもので一辺約 8.0m・検出面からの深さ約 0.15mです。基本的に、地表面を掘りくぼめて、4 本の主柱(屋根を支えるための柱)を立て、建物中央部には炉(煮炊きに使用)や中央土坑があります。また、建物の壁側に壁溝(排水用の溝)を作ってい

ます。円形住居では柱などが焼け落ちた状態で、炭が敷き詰まっております。焼失した住居だと考えられます。

出土遺物には甕、壺などの弥生土器を中心に、石鏃、砥石、磨石、石斧などの石器のほか、土玉と思われる土製品があります。

土坑………弥生時代のものは16基あり、廃棄されたと思われる弥生土器が多量に出土しています。用途としては、ゴミ穴などが考えられます。

出土遺物には甕、壺などの弥生土器を中心に、石鏃や石庖丁などの石器があります。

## 古墳時代後期の遺構

竪穴住居………現在のところは30棟以上見つっています。中には数棟が重複しているものもあり、これは、建て直しをしているためだと考えられます。弥生時代中期中葉から後葉の竪穴住居の形が円形と方形のものが混在していたのに対し、正方形・長方形のものが中心です。規模は、最大のものが一辺約6.9m・深さ約0.35mです。この時期の住居にはカマドが竪穴住居の壁際に作られます。

出土遺物には、土師器(甕・壺・高杯・甑)、須恵器(甕・壺・杯身・杯蓋)があります。その他、石器(砥石)や鉄器などがあります。

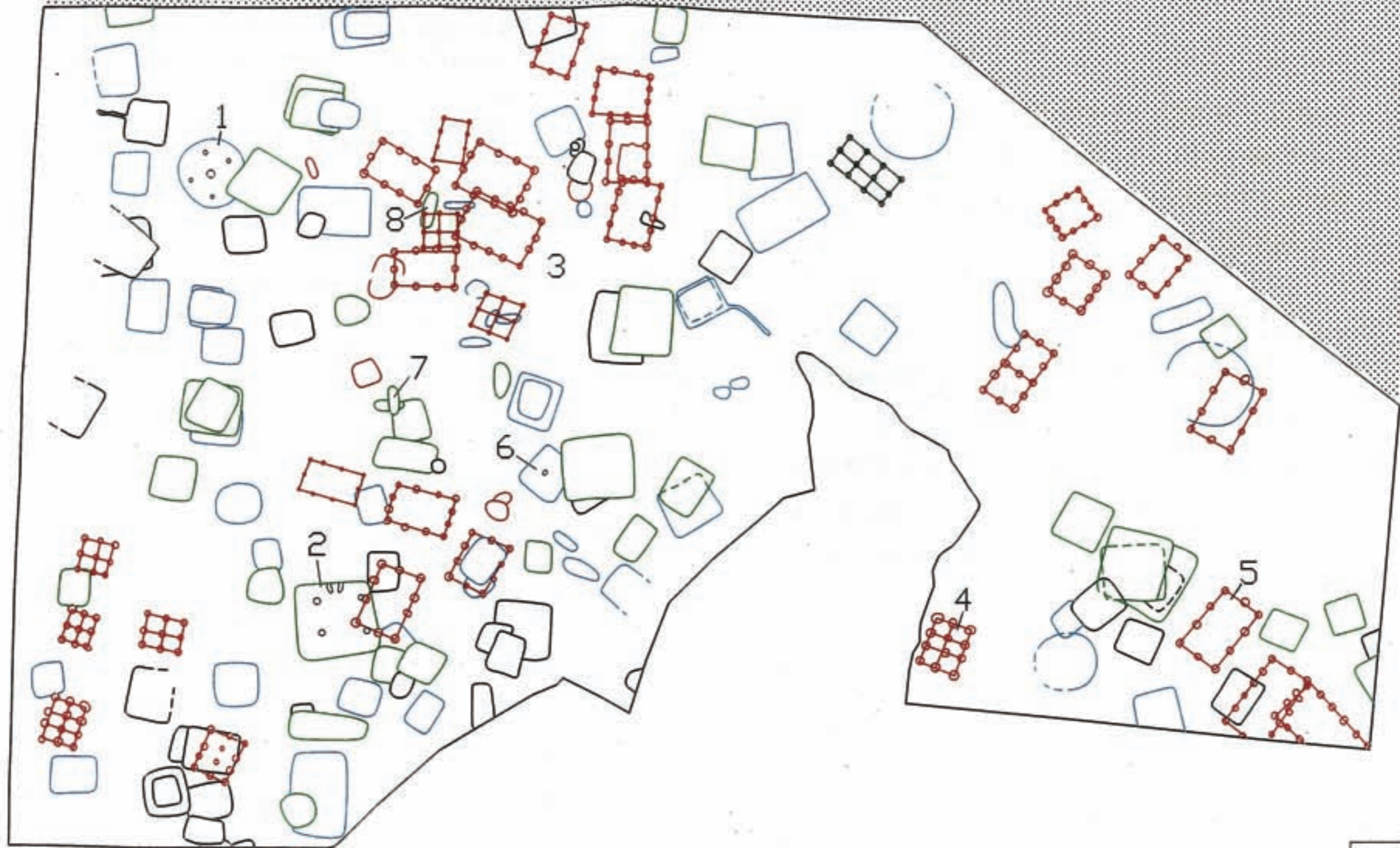
土坑………現在のところは13基見つっており、弥生時代のものに比べ、大型で、掘り方が整っているようです。出土遺物は、住居同様に土師器、須恵器があります。

## 飛鳥・奈良時代の遺構

掘立柱建物……飛鳥・奈良時代の掘立柱建物は30棟見つっています。建物の構造には、周囲だけに柱を巡らせる側柱建物と、建物内部(側柱の各交点)にも柱を持つ総柱建物の2種類があります。側柱建物は最大規模のもので梁行3間(約5.6m)×桁行5間(約9m)で床面積約50.4㎡(約15坪)、総柱建物は梁行2間(約3.7m)×桁行3間(約4.7m)で床面積約17.4㎡(約5坪)を測ります。出土遺物は土師器・須恵器が中心です。

土坑………現在のところ7基が見つかりました。なかには、奈良時代のごみ穴と考えられるものがあります。土師器(杯、甕、甑)や須恵器(杯、甕)、鉄器(刀子)などの遺物が出土しました。

平成 19 年度 調査予定区



凡 例	
□ (blue)	弥生時代中期
□ (green)	古墳時代後期
□ (red)	飛鳥・奈良時代
□ (black)	時期検討中

<境谷遺跡 遺構配置図>



## まとめ

今回、広範囲にわたって発掘調査を行ったことにより、弥生時代中期と古墳時代後期から奈良時代に至る多数の建物が見つかり、当時の集落を考える上で貴重な資料を得ることができました。

### 弥生時代

#### ① 竪穴住居（円形住居から方形住居へ）

弥生時代中期中葉から後葉の段階で、竪穴住居の形が円形から方形に変化していくようです。

また、今回見つかった弥生時代中期の円形住居はすべて焼失住居です。このことは、同じ時期の方形住居との比較検討や他地域の類例を見る必要がありますが現段階では火災により焼失したもののか、意図的に燃やされた<sup>はいぜつさいし</sup>（廃絶祭祀）可能性が考えられます。

#### ② 集落の変遷

平成2年度に、谷を隔てたすぐ西側の丘陵上で中尾山遺跡が調査されており、弥生時代中期中葉の竪穴住居 55 棟、中期後葉の方形周溝墓 22 基が見つっています。境谷遺跡は中期中葉から後葉が主体であるため、中尾山遺跡に並存・後続する集落と推定されます。

今のところ境谷遺跡では墓域が見つかっていないため、中尾山遺跡が墓域として利用された可能性も考えられます。また、同じ丘陵上には沖ノ坂遺跡や寺山遺跡などのほぼ同時期にあたる集落が営まれ、谷からの豊かな湧水などを生活基盤として、丘陵の中で集落の移動が行われていたと考えられます。

### 古墳時代

古墳時代後期では、竪穴住居は 30 棟以上見つっています。中には数棟が重複しているものもあり、建て直しをしていると考えられます。また、カマドを設けている住居が多く、カマドが普及していることが伺えます。

集落周辺の遺跡では、谷を隔てた台地上に中尾山古墳群が造られており、時期的にも同時期であることから、この集落を支配した人が葬られたのかもしれませんが。

### 飛鳥・奈良時代

#### ① 掘立柱建物(竪穴住居から掘立柱建物へ)

掘立柱建物の側柱建物は住居、総柱建物は倉庫だと考えられます。また、棟方向が南北や東西

を向くかたちで建てられており、いくつかのまとまりを持ってある程度の規則性をもっていと  
考えられます。この時代には一部竪穴住居もありますが、数量的にみると、古墳時代後期に比べ、  
減少することなどから、住居の様式が竪穴住居から掘立柱建物へと移行すると考えられます。

掘立柱建物は飛鳥時代から建てられ始めることは確認できましたが、詳しい存続時期について  
は検討中です。しかし、ごみ穴と考えられる土坑から遺物が見つかったため、奈良時代まで  
は建てられていたと推測できます。

## ②大鹿氏と境谷集落

飛鳥・奈良時代になると、それぞれの地域が行政区画（<sup>くに</sup>国・<sup>ぐん</sup>郡・<sup>ごう</sup>郷など）に組み入れられて  
いきます。境谷遺跡を含むこの地域は<sup>かわわぐん</sup>河曲郡に属し、古くから伊勢国分寺の造営に大きな影響  
を与えたといわれる古代豪族の<sup>おおか</sup>大鹿氏の存在が知られています。その権力の大きさや性質には  
諸説ありますが、『日本書紀』敏達<sup>にほんしよき</sup>4年（西暦575年）に大鹿氏の一<sup>びたつ</sup>族から、<sup>びたつ</sup>敏達天皇に<sup>うねめ</sup>采女（天  
皇の側室）を出したことが記されています。境谷遺跡の集落は、まさにその時期に合致します。

文献史料では王権とこの地方との関係を指摘できる一方で、今回の発掘調査では関係を示すよ  
うな特別な遺物や建物などが見つかったわけではありません。そのことが、被支配者層の住  
んでいた集落のあり方を暗示しているのかもしれませんが。

## おわりに

現在、図面や遺物を整理している最中ですが、境谷遺跡の評価や周辺遺跡の中での位置付けを  
行うには、より詳細な資料の分析を行う必要があります。この項に示したことを念頭におきなが  
ら、今後もさらに分析・検討し、伊勢国分寺が造営される以前の集落のあり方を明らかにして行  
きたいと考えています。

## 参考文献

- 鈴鹿市教育委員会 1980年『鈴鹿市史』第一巻
- 鈴鹿市教育委員会 1985年『鈴鹿市史』第四巻 資料編一
- 坂本太郎・家永三郎・井上光貞・大野晋 1965年『日本書紀』下 岩波書店
- 池辺弥 1970年『和名類聚抄郷名考証』吉川弘文館
- 岡田登 1996年「伊勢大鹿氏について(上)」『史料』 皇學館大學史料編纂所
- 岡田登 1996年「伊勢大鹿氏について(下)」『史料』 皇學館大學史料編纂所
- 斎藤忠 1998年『日本考古学用語辞典』 学生社
- 山中章 2002年「伊勢国北部における大安寺墾田地成立の背景」『ふびと』第54号 三重大学歴史研究会
- 田中琢・佐原真 2002年『日本考古学事典』 三省堂
- 三重県 2006年『三重県史』資料編 考古1

## 用語解説

<sup>たてあな</sup> <sup>しき</sup> <sup>じゅうきよ</sup>  
堅穴(式)住居 地表面を掘りくぼめて作られた住居です。方形、長方形、円形などのさまざまなものがあり、主として縄文時代から奈良時代にみられます。古墳時代中ごろ以降になるとカマドが設けられているものがでてきます。

<sup>ほったて</sup> <sup>ばしら</sup> <sup>たて</sup> <sup>もの</sup>  
掘立柱建物 地表面に穴を掘り、柱を埋め込んで立てた建物です。柱穴が方形に並ぶもの(側柱建物)は土間の建物で、集落で見つかった場合は住居と考えられます。格子状に並ぶもの(総柱建物)は床張りのある建物で、多くは倉庫と考えられています。

<sup>どこう</sup>  
土坑 昔の人が意図的に掘った穴の総称です。ごみを捨てるために掘られた穴であったり、用途が不明な場合が多くあります。

<sup>いしほうちよう</sup>  
石庖丁 稲の穂首を刈り取るための道具です。手の中に収まる大きさのものが多くあります。

<sup>せきぞく</sup>  
石鏃 <sup>やじり</sup> 石を加工して作られた矢尻です。石を打ち欠いて作ったもの(打製石鏃)と打ち欠いて大まかな形を作った後、磨いて整形したもの(磨製石鏃)があります。

<sup>やよいどき</sup>  
弥生土器 弥生時代に野焼きで作られた土器です。縄文土器に比べ文様は簡素で、硬く焼き上げられています。種類は、貯蔵に用いる<sup>つぼ</sup>壺や煮炊き<sup>かめ</sup>に使う甕が多くみられます。

<sup>はじき</sup>  
土師器 古墳時代以降に作られた素焼きの土器です。およそ 800°Cで野焼きされ、褐色をしています。種類は<sup>つき</sup> <sup>たかつき</sup>杯、<sup>かめ</sup> <sup>つぼ</sup> <sup>こしき</sup>高杯、皿、甕、壺、甗などがあります。食器、煮炊具として使われていました。

<sup>すえき</sup>  
須恵器 古墳時代中期以降につくられた土器です。朝鮮半島から作り方が伝わったとされています。およそ 1300°Cで窯焼きされたため硬質で、青灰色をしています。種類は<sup>つき</sup> <sup>たかつき</sup>杯、高杯、甕、壺などがあります。煮炊きには不向きで、食器や貯蔵のために使われたと考えられています。

<sup>とうす</sup>  
刀子 鉄で作られた小刀です。多彩な用途が考えられます。

お問い合わせ先  
鈴鹿市考古博物館  
住所：鈴鹿市国分町 224 番地  
電話：059-374-1994



弥生時代中期の焼失住居（焼け落ちた柱の検出状況）



飛鳥・奈良時代の掘立柱建物 検出状況



竪穴住居のカマドの支脚しきやく 出土状況



古墳時代後期のカマドの遺物 出土状況



弥生時代中期の竪穴住居の遺物（石鎌・土玉） 出土状況



飛鳥・奈良時代の土坑の遺物出土状況



河曲郡

加波和(刊本郡部)

河曲郡、平城宮出土木簡文書(四—11)。大安寺伽藍縁起并流記資財帳(天平十九、二、十一)。太神宮諸雜事記。

川曲坂本、天武紀元、六。

河曲、皇太神宮儀式帳。長寛元年未進注文。

河曲庄、中右記、長承二、七、廿七。

河曲村、吾妻鏡、文治三、四、廿九。

神戶 (高本なし)

河曲神戶、皇太神宮儀式帳。神宮諸雜事記。神宮雜例集。

驛家 (高本なし)

河曲驛、延喜式兵部省。高本驛名。

中跡 奈賀止 (高本) 奈加止 (刊本)

中跡直、舊事本紀(天神)。

奈加等神社、延喜式神名帳。

中跡庄、吾妻鏡、文治三、四、廿九。

海部 安万 (高本) 阿末 (刊本)

川部

川神社、延喜式神名帳。

賀美 加美 資母 之毛

深田 布賀 (高本) 布加多 (刊本)

深田神社、延喜式神名帳。

日本書紀卷第二十

敏達天皇 三年十月—五年三月

四年の春正月の丙辰の朔甲子に、息長眞手王の女廣姫を立てて皇后とす。是の男・二の女を生れませり。其の一を押坂彦人大兄皇子と曰す。更の名は、麻呂

古皇子。其の二を逆登皇女と曰す。其の三を難波皇子と曰す。其の二を春日皇子と曰

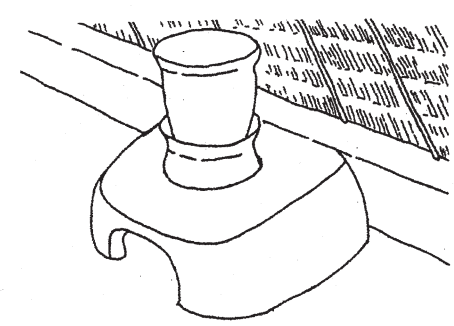
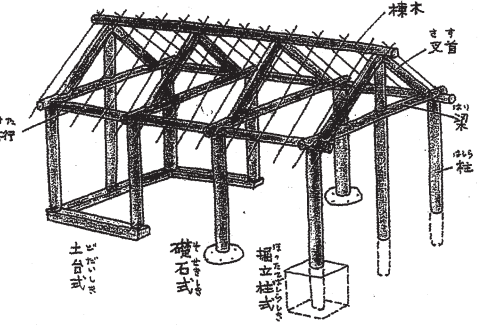
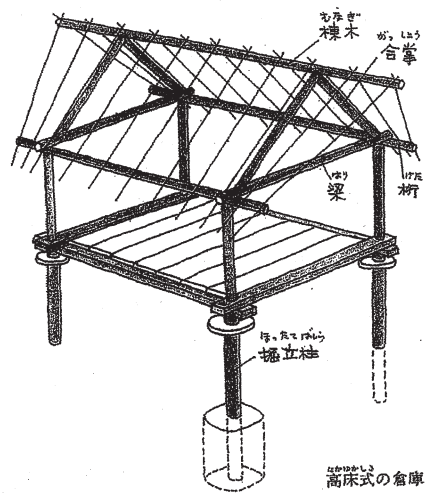
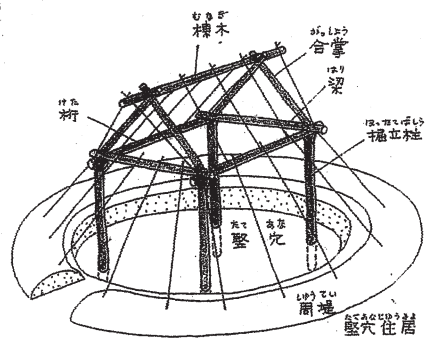
是の月に、一の夫人を立つ。春日臣仲君の女を老女子夫人と曰ふ。更の名は、藥君

娘。三の男・一の女を生れり。其の一を難波皇子と曰す。其の二を春日皇子と曰

す。其の三を桑田皇女と曰す。其の四を大派皇子と曰す。次に采女、伊勢大鹿首小

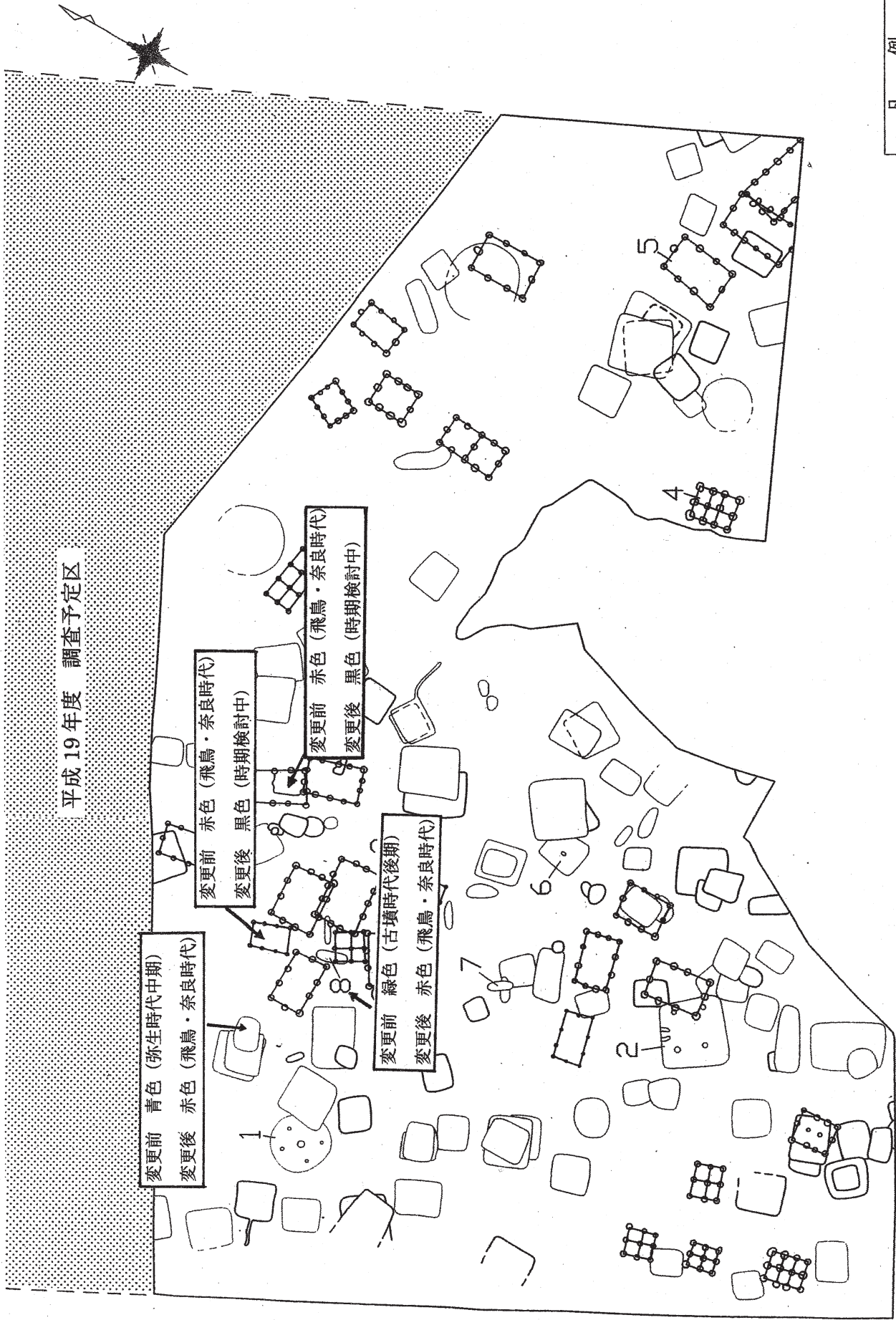
熊が女を菟名子夫人と曰ふ。太姫皇女 更の名は、櫻井皇女。と糠手姫皇女 更の名は、田村

皇女。とを生れり。



カマドの想像図

凡	例
□	弥生時代中期
□	古墳時代後期
□	飛鳥・奈良時代
□	時期検討中



平成19年度 調査予定区

変更前 青色 (弥生時代中期)  
変更後 赤色 (飛鳥・奈良時代)

変更前 赤色 (飛鳥・奈良時代)  
変更後 黒色 (時期検討中)

変更前 赤色 (飛鳥・奈良時代)  
変更後 黒色 (時期検討中)

変更前 緑色 (古墳時代後期)  
変更後 赤色 (飛鳥・奈良時代)